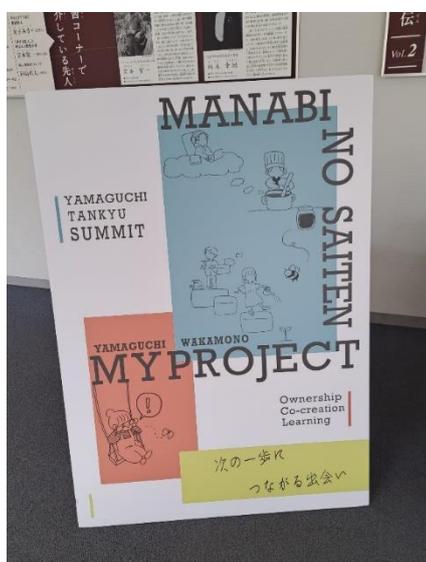


「山口トップランナープロジェクト（YTP）」の活動を見学しました。

山口トップランナープロジェクトは、山口市在住の高校生が地域課題を発掘し解決に取り組む、実践プロジェクトの支援等に取り組んでおられる団体です。2月2日（日）、山口セミナーパークで開催された「やまぐち探求サミット\*」に、YTPが伴走支援した高校生グループが出場されましたので、その取り組みを見学するため、会場に足を運びました。



\*やまぐち探求サミット：

山口県内で「マイプロジェクト」に取り組んできた高校生が、発表する、聴く、対話する、を通し、新たな気づきや観点を得る機会



YTPが支援する高校生たちは、書類審査をパスし、2/2はサミットのDay2へと歩を進めておられました。

「やまぐち若者マイプロジェクト」の流れ



これまでのプロジェクトを振り返り、アクションを通して見えた「学び」を言葉にしていくオンラインプログラムを実施。

探究的な学びをしてきた山口県内の高校生がプレゼンテーションを通してプロジェクトを振り返り、互いに学び合うとともに全国Summitへの参加チームを決定します。

地域Summitで選ばれた48プロジェクトが集結、文部科学大臣賞（最高賞）を授与。写真は2018年度全国Summitの様子。

今回、YTP が伴走支援された高校生のプロジェクトの概要です。

プロジェクト名： 多様な子どもを見つめて

学校名： 山口高校・山口松風館高校

プロジェクト概要： 「不登校の子どもが増加している」という社会の現状について、「学校とはどういう場所なのか」という問いからアプローチし、不登校の子どもたちの居場所づくりのためにできることや、新たな「学び方」について深く探求しました！



このグループでは、

「不登校になると、いい人生を送れないのか？」

「学校は、人生を変える場所であってほしい」

といった問題認識や課題設定をもとに探求を始め、現学校教育になじめない子どもたちに多様な学びの選択肢を展開している県内の活動団体「一般社団法人 Happy Education」に話を聞きに行く、といった仮説検証をしながら、プロジェクトを進めておられました。

発表後の高校生と教室のサポーター（評価者）との対話質疑では、

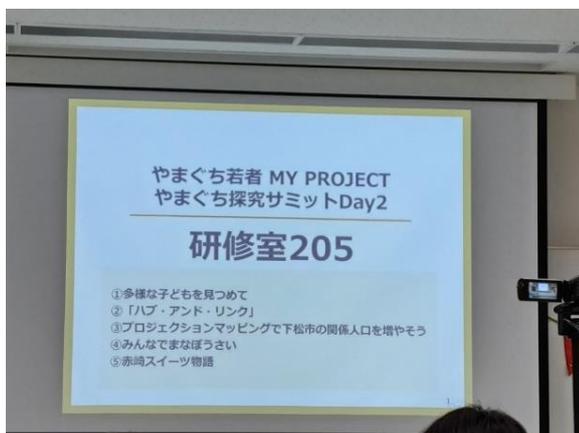
高校生： 「先生たちは、もっと社会との接点を持つといいと思う」

サポーター： 「先生たちがどんな風になったら、あるいはどういうことをすれば、『社会と接点を持っている』と感じるのだろうか」

高校生： 「学校教育の場にも、もっと自由度の高い科目があるとよい」

サポーター： 「『自由度が高い』とはどういうことだろう？そこを明確にしてもらえると、先生たちも（同じ目線で？）考えることができるのでは」

といったやりとりがありました。



また、質疑応答を通しては、

高校生が

「自由度の高い科目を選択できたとして(その選択のもと)果たして自分が自立できるか、とも考える」と「自由度」についての考えを深めるような場面や、サポーターが

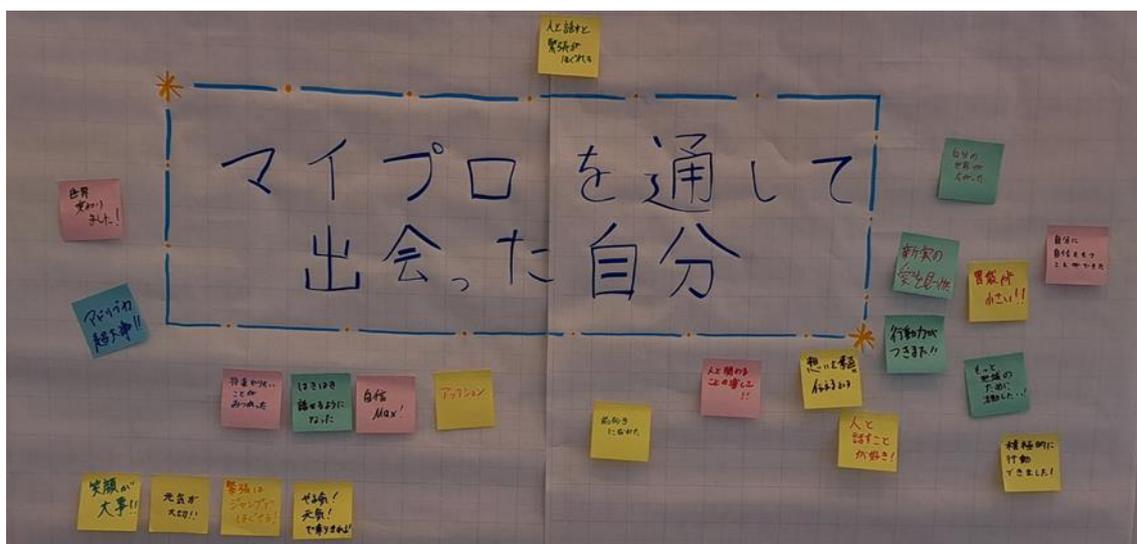
「違う世代の考えは、時に分からないこともある。若い皆さんの新しい考え方を是非取り入れたいので、双方が歩み寄り、理解しあえるよう助けてほしい」と伝えるような場面もありました。

私自身が高校生だった頃と全く違う学び方をしている高校生たち・・・。

ふと「私からすると、彼女たちはすでに、今回の探求の肝である『新たな学び方』をしているな」と思いました。

高校生だった頃の私は、モヤモヤしながらも明確にそれが何かを定義できず、そのまま学び続けてしまいましたが、時代が移るにつれ、今回発表した高校生たちのように、問題認識や課題設定をもった人たちが、自分の考えを発信する土壌のようなものもでき、教育は、今日のように変化してきたのではないか・・・。

そう考えると、数十年先に、高校生たちの「マイプロジェクト」がなんらかの形で現実化している可能性は大いにあり、YTPさんのように「ななめの関係、外の師匠」となる大人が、若い世代を伴走支援しながら、トップランナーを育てていくことは、とても大切なことではないか。そんなことを改めて思いつつ、サミット会場を後にしました。



出場した高校生たちのメッセージボード

今回、発表をされた高校生・伴走された YTP の皆さま、本当にお疲れ様でした。

そして、素晴らしい活動を見学させていただき、ありがとうございました！

(竹岡)